

# シカゴ大学教師教育カリキュラム —デューイ教育学科長時代と教育学部長時代—

伊 藤 敦 美

## 1 研究の問題と目的

デューイ教育学部長時代と教育学科長時代のシカゴ大学教育学科 (Department of Pedagogy) 及び教育学部 (School of Education) の教員養成部 (College of Education) のカリキュラム分析を行うことによって、シカゴ大学における教師教育カリキュラムの特徴を明らかにすることを本稿の目的とする。

シカゴ大学教育学科は 1895 年にデューイを学科長として、教育学部は 1901 年に F.W. パーカーを学部長として開設された。デューイの教育学科では教育学研究・教育、師範学校や教員養成校の教師・教育長などの専門職教育及び中等教員養成を、パーカーの教育学部では初等教員養成を行っていた<sup>(1)</sup>。デューイは、1902 年 3 月パーカーの急逝後、同年 5 月に教育学部長に就任した。デューイ教育学部長就任後は、教育学部における教員養成はジュニアカレッジ相当の初等教員養成から、シニアカレッジ相当の初等・中等教員養成及び師範学校教員養成へと大きく変更された。教育学科は、1902 年度より哲学科教育学部門に位置づけられ、教育学科の学士課程は教員スタッフと共に教育学部に移された<sup>(2)</sup>。

ダイキューゼン (G.Dykhuisen) は、デューイが学科長となった 1895 年から 1896 年と 1896 年から 1897 年の教育学科について、学科の課程のスケジュールは、シカゴ大学での教育学研究に新時代をもたらしたと述べている<sup>(3)</sup>。しかしながら、それ以降についてはデューイ担当の授業科目に関して若干言及されているのみである。また、デューイ教育学部長就任後については、この頃のシカゴ大学の教育計画は国内において最も完璧で包括的なものと一般にみなされていたと説明されている<sup>(4)</sup> が、具体的なカリキュラムについては言及されていない。デューイの教師教育カリキュラムに関する研究は、直接的なものとしては小柳<sup>(5)</sup> を挙げることができるくらいで極めて少ない。小柳はデューイの書簡などを用いて、教育学科及び教育学部の構想とデューイによる同学科及び同学部の運営と組織改革、カリキュラムの概要、実験学校との関係などについて言及しているものの、教育学科及び教育学部のカリキュラムの詳細については明らかにはされて

いない。

筆者は、これまでにシカゴ大学教育学科におけるデューイ教師教育カリキュラムの分析を行い<sup>(6)</sup>、①夏学期のマイナーコースの履修形態による授業の開講、②教職経験を考慮した授業プラン、すなわち、連携する諸学校における観察や実習時間の教職経験の有無による増減を可能とする授業科目構成、③シニアカレッジ・コースへの学校現場での実践を伴う授業科目の開設、④グラデュエイト・コースにおける中等教育に関する授業科目の充実、⑤他学科との連携といった特徴を見出した。これらの諸特徴から、夏学期における現職教員の教育、シニアカレッジ・コース及び他学科における基礎的理論の学習及び実践を伴う授業を通しての実証的な教育学研究、実践の経験に基づいたグラデュエイト・コースにおける理論研究及び中等教員養成というカリキュラムデザインを導いた。こうしたカリキュラムによって、デューイは、教育学科において、教育学研究・教育、師範学校や教員養成校の教師・教育長などの専門職教育及び中等教員養成を実践していた。

また、パーカー教育学部長時代（1901年度）とデューイ教育学部長時代（1902年度、1903年度）のシカゴ大学教育学部の教員養成部のカリキュラムの比較・検討も行った<sup>(7)</sup>。この研究により、デューイ学部長時代のシカゴ大学教育学部のカリキュラムには、①教育学関連科目の充実、②授業科目担当者や授業形態に関する改革の実施、③入学要件の引き上げ、学位の授与による高度な教師教育の実現といった特徴があったことを明らかにした。シカゴ大学教育学部においては、教育社会学、教育心理学、教育史、一般教育学に関する授業科目を設けるというデューイの構想を活かした授業科目が大幅に増設され、必要とされる理論を十分に学ぶ環境が整備された。そして、1901年度はパーカー1人でほぼ全ての教育学関連の授業科目を担当する計画であったが、1902年度、1903年度は哲学科（旧教育学科<sup>(8)</sup>）の教員、旧シカゴ学院の教員、ハーパー学長、人文学部長のジャドソンといった多様な担当者による授業科目や、複数の教員で行う授業科目が設けられ、多様な学びが可能となった。さらに、1903年度の段階でシカゴ大学教育学部は、従来教育学部が担ってきた初等教員養成と教育学科が担ってきた教育専門職教育を行うことのできる組織として整備された。

本稿では、デューイ教育学科長時代（1898年度から1901年度<sup>(9)</sup>）と教育学部長時代（1902年度、1903年度）の教員養成部のカリキュラム分析を行うことによって、シカゴ大学におけるデューイによる教師教育カリキュラムの特徴を明らかにすることを目的とする。

まず、デューイ在任中のシカゴ大学教育学科と教育学部の特徴を概説する。次に、1898年から1901年度のエデュケーション学科と1902年度及び1903年度のエデュケーション教員養成部のカリキュラムの比較検討を行う。最後に、デューイ辞任後の1904年度の哲学教育学科と教育学部教員養成部について検討する。分析、検討には『シカゴ大学年次記録』(Annual Register)を用いる。

## 2 教育学科及び教育学部教員養成部の特徴

### (1) 教育学科の目的

『シカゴ大学年次記録』によれば、教育学科の目的は次の通りである。

当学科の主目的は、教育上の諸問題を広範かつ科学的に取り扱う有能なスペシャリストを養成することである。この目的のために、開講科目は大きく3つの項目に分けられている。(1) 心理学およびそれに関連する諸科目、(2) 教育理論の諸科目、(3) さまざまな専門化学の教授法である。(・・・中略引用者・・・)

教育の理論と方法を学ぶためには、その基礎として心理学の諸原理を十分に習得しておく必要がある。教育諸問題を科学的に研究するためには、あらかじめ知性の発展について現代の研究成果と方法に精通しておく必要がある。教育の究極の目的を理解するためには、倫理学によってさまざまな価値と理想を評価できるようにしておく必要がある。広い視野を獲得するためには、人間の精神史をよく知っておく必要がある。それゆえ、教育理論に関する科目群を受講するためには、あらかじめ哲学科の3つの入門科目(心理学、倫理学、論理学 引用者による)を受講し、そのうえで上記の諸方面の学習をすすめながら当学科の専門を深めていくようにすることが望ましい。それに加えて、さらには生物学、生理学、神経学、社会科学などの関連諸科目にも関心を向ける必要がある。

教育理論は往々にして、論理学同様、最新の科学の研究動向から疎遠なままになっている。語学や自然科学の有能な研究者や教師はそれらの科目の教授法に関してもっと積極的な貢献をすべきである。なぜなら、純粋に抽象的な教育学では、しばしば教材と方法の間の密接な関係が無視されているからである。それゆえ、他学科において、それぞれの専門科学の方法論に特に強調をおいた科目を受講するようにしている。(・・・中略引用者・・・)

また、学校現場をいろいろと見てまわり、教師や教育長の立場から理論と実践の関係を批判的に評価することもレポートや討論による通

常の授業の一部をなしている。

教育学科に付設されている小学校では、科学的な観察と調査の機会が提供される。さらに広範な観察の機会は、中等の諸学校で提供されるだろう<sup>(10)</sup>。

(筆者傍線)

教育学科の目的の特徴として、教育上の諸問題を広範かつ科学的に取り扱うスペシャリストの養成、教育学関連科目を学ぶ前提として哲学科の3つの入門科目（心理学、倫理学、論理学）の受講、他学科との連携、近隣の学校、実験学校における実践的な学習の4点を挙げられる。

## (2) デューイの教育学科構想の概要

デューイは、大学における教育学科の役割は、師範学校の教員養成とは異なり、教育専門職（教育長や指導主事など）の養成と教育理論の科学的研究にあると考えていた。そのため、デューイの教育学科構想には、初学者を対象とする師範学校の教員養成とはっきり区別する、既に師範学校を卒業している現職教員を対象にするといった特徴があった。<sup>(11)</sup>

## (3) 教育学部教員養成部の目的

『シカゴ大学年次記録』によれば、教育学部の教員養成部の目的は次の通りである。

教員養成部では、小学校教育と中等教育において生じる問題について、教育学的な観点からコースが設けられている。諸コースは、小学校と中等学校と師範学校の教師と指導主事の教育、幼稚園教師、その他の教育に関するスペシャリストの養成のためにデザインされている。教育学部のそれぞれのメンバーは、学部全体の教育計画とワークを熟知しているので、カリキュラムの中で担当の授業科目と他の授業科目の関係が明瞭に表れるよう諸コースを提供できる。

すでに教育に携わっている、あるいは教育の専門職に自分自身を適応させたいと望んでいる人のニーズのために特別に配慮した、教育学理論を開発し、実践において例証することが目的である。

教員養成部のカリキュラムは、小学校、中等学校、師範学校で教えられている全ての授業科目の教育学的な提案が含まれている、そして、心理学と教育史も含んでいる<sup>(12)</sup>。

(筆者傍線)

教育学部教員養成部の目的の特徴として、教育に関するスペシャリストの養成、教育経験者・教育の専門職のための教育学理論の開発・実践における例証、小学校・中等学校・師範学校の全教科への教育学的提案の3点を挙げられる。

#### (4) デューイの教育学部構想の概要

デューイの教育学部構想には、教育学部を2年制の初等教員養成中心の体制から中等教員養成を含む4年制の体制にすること、教育学部の専門教育を師範学校卒業者向けの教育にすること、Ed.D(教育専門職博士号)を取得できる大学院課程を設置するといった特徴があった。<sup>(13)</sup>

### 3 カリキュラムの検討

(1) 授業科目の概要、(2) 中等教育に関する授業科目、(3) シカゴ大学と連携する諸学校における実践的な学習、(4) 他学科との連携、(5) デューイ担当授業科目の5つの観点<sup>(14)</sup>から教育学科と教育学部のカリキュラムを検討する。表1に1898年度から1901年度の教育学科及び1902年度、1903年度の教育学部教員養成部、表2に1902年度、1903年度の哲学科教育学部門の教育学関連の授業科目をそれぞれ示し検討を行う。

シカゴ大学教育学科は、ジュニアカレッジ・コース、シニアカレッジ・コース、グラデュエイト・コースの授業科目で構成されていた。教育学部は、ジュニアカレッジ相当(1、2年生向け)、シニアカレッジ相当(3、4年生向け)、グラデュエイト・コースの授業科目で構成されていた<sup>(15)</sup>。

#### (1) 教育学関連の授業科目の概要

##### (a) ジュニアカレッジ・コース(表1参照)

教育学科では1898年度に2科目開設されているのみである。教育学部では、1902年度にデューイが学部長に就任し、教育学科の学士課程が移されたことに伴い、同年度のみ、ジュニアカレッジ相当及びジュニアカレッジ・シニアカレッジ相当の授業科目は12科目設置されている。このうち、「教育心理学」「古代から18世紀までの教育の理論と実践の歴史」「18世紀から19世紀間の教育の思想と進歩」「教材の方法」の4科目は1901年度に教育学科においてシニアカレッジに開設されていた授業科目である。この4科目のうち前者3科目は1903年度には、教育学部においてもシニアカレッジ相当の位置づけに変更された。この3科目は、いずれも旧教育学科の専任スタッフ担当である。残る9科目は、旧シカゴ学院系の専任ス

スタッフ、非常勤講師、旧教育学科の専任スタッフの担当であった。

(b) シニアカレッジ・コース (表1参照)

1902年度の教育学部を除けば、教育学科及び教育学部において全学期にわたって授業科目は開設されている。両者ともに夏学期はマイナーコース (Minor Courses:1日1時間、6週間) の履修形態が大半を占めている。1899年度、1902年度を除いて、夏学期には必ず「教育心理学」が開講されている。いずれも、現職教員の教育が念頭に置かれてのことであろう。教育学科では1898年度より「教育の方法」及び「教育の歴史」に関する授業科目が必ず開講されていた。これらの授業科目は、教育学部では1902年度はシニアカレッジ・コースではなく、ジュニアカレッジ・コースに開設されている。1903年度は、教育の方法に関する授業科目は幼稚園の指導法があるのみである。教育の歴史に関する授業科目は開設されているが未開講の予定となっている。同年の哲学科教育学部門では、教育の方法及び教育の歴史に関する授業科目はいずれも開講されている。これらは1902年度に教育学部へ移されたものだが、1903年度に再び哲学科教育学部門で開設されることになった。

教育学部では1903年度には、初めて教員養成部のオリエンテーションを担う授業科目が開設された。教育学部のスタッフ (附属小学校、旧シカゴ学院) による附属小学校の仕事に関する15回のラウンドテーブル、及び、ハーパー学長とジャドソン人文学部長によるカレッジの運営に関する12回の講義である。

(c) グラデュエイト・コース (表1参照)

1902年度の教育学部を除けば、若干の学期を除き、ほぼ全学期にわたって授業科目が開設されている。シニアカレッジ・コースと同様に教育学科、教育学部ともに夏学期はマイナーコースの履修形態が大半を占めていた。また、ゼミの履修形態がいずれかの学期で取り入れられている。教育学科で毎年度グラデュエイト・コースに開設されていた中等教育に関する授業科目は教育学部及び哲学科の教育学部門のグラデュエイト・コースでは開設されていない。

1902年度の教育学部では、グラデュエイト・コースの授業科目は1つも開設されていない。1903年度の11の授業科目のうち10科目は哲学科教育学部門の授業科目である。唯一の教育学部の授業科目「応用教育論理学」も、哲学科に同名称の授業科目があり、担当者も開講時期・時間 (デュー

イ担当、春学期、12時から)も同じである。

(d) 教育学部と哲学科教育学部門との関係(表1、表2参照)

1902年度に教育学部の学士課程は教員スタッフと共に教育学部に移され、哲学科の教育学部門の位置づけとなったことにより、同部門ではグラデュエイト・コースの授業科目のみ14科目開設された。1903年度からは、シニアカレッジ向け、グラデュエイト・スクール向け合わせて31科目開設された。このうち、13科目は教育学部の学生も履修できるものであった。1902年度の教育学部では、ジュニアカレッジ及びシニアカレッジ相当で15科目開設され、このうち4科目は旧シカゴ学院系の専任スタッフ、10科目は旧教育学部(哲学科)の専任スタッフ、一科目は非常勤講師の担当予定となっていた。さらに、1903年度の教育学部の授業科目には、哲学科教育学部門の授業科目であると記述されていないが、どちらにも掲載されており、学期、時間、担当者が同一の授業科目が9科目あった。すなわち、31科目中22科目が一致していた。したがって、哲学科教育学部門と教育学部が連携してデューイが目指した中等以上の教員養成と現職教員向けの専門教育の課程を実現する体制であったと考えられる。

(2) 中等教育に関する授業科目(表1、表2参照)

教育学部では主としてグラデュエイト・コースに中等教育に関する授業科目は開設されていたが、教育学部ではシニアカレッジ・コースに開設されていた。1903年度は哲学科教育学部門にも中等教育に関する授業科目は開設されているが、グラデュエイト・コースには開設されていない。これは、1903年度より、正規学生の入学要件が、少なくとも4年のハイスクール課程の上に2年間の学業(カレッジでも師範学校でもよい)と変更され、教育学部が、ジュニアカレッジ相当の初等教員養成学部から、シニアカレッジ相当の初等・中等教員養成学部に大きく変更されたことに関連して、シニアカレッジ・コースの学生の入学レベルが上がったことによると考えられる。また、中等学校教員と師範学校教員志望者コースでは、ジュニアカレッジ修了者を受け入れていたことから、シニアカレッジ・コースに中等教育に関する授業科目が開設されたのだろう。

(3) シカゴ大学と連携する諸学校における実践的な学習(表1参照)

教育学部においては、実験学校や実験学校以外の学校における実践的な学習が積極的に取り入れられていた。特に、実験学校と連携した授業科目

は各学期に数多く設置されていた<sup>(16)</sup>。

教育学部の授業科目では、1902年度に「応用教育学」において附属小学校教員によるチェーンレクチャーが開設されている。1903年度は「幼稚園の指導法」「フレーベルの教育哲学」において幼稚園における観察と実習が取り入れられている<sup>(17)</sup>。

『シカゴ大学年次記録』に掲載されている授業科目をみる限り、教育学科に比べて教育学部では連携する諸学校における実践的な学習は少ない。しかしながら、履修要件には1日1時間実習校で観察と授業を行うこと、中等学校において専門科目の授業を行うことなど、各コースに応じた実践的な学習が求められており、各コースごとにシカゴ大学と連携する諸学校における実践的な学習が取り入れられていたと考えられる。

#### (4) 他学科との連携

デューイは、かなりの数の学生が教師を目指しているが、専門教科のトレーニングしか受けていないことを懸念しており、教育学科では他学科との積極的な連携が図られていた<sup>(18)</sup>。

教育学部では、1903年度より中等学校教員と師範学校教員志望者コースにおいて、シニアカレッジと教育学部両方に学生登録をし、前者では教科専門科目を、後者では教科教育学を学ぶことが行われていた。このコース修了者は、専門分野に応じて文学士(A.B.)、哲学士(Ph.B.)、理学士(S.B.)のうちのいずれかと教育学の専門職ディプロマが授与されることになっていた<sup>(19)</sup>。また、1902年度の履修表によれば、2年次はシカゴ大学のジュニアカレッジやシニアカレッジで教育学部学生の履修が認められている科目の中から若干の科目を選択履修すること、3年次はそれに加えて哲学科と教育学科で履修が認められている科目の中から選択履修することと定められていた<sup>(20)</sup>。

また、デューイは、教育実習について実習を学部の各学科長の責任の下に置き、実習校の担任教師(Grade Teacher)を実習指導(supervision)から解放して、実習指導は学部の各教員(Departmental Teacher)が行うようにし、実習校の担任教師は実習指導の補助を行うことを構想していた。さらに、ハーパー学長は、教員養成においては教育学部と大学の各専門学科(Departments of the University)との連携を強化し、教育学部の学生が可能な限り多くの機会に大学の専門学科で履修できるよう教育学部のカリキュラムを改変することを訴えていた<sup>(21)</sup>。

1902年度の『シカゴ大学年次記録』には、教育学部の顧問としてシカ



ゴ大学の各学科長等が名を連ねていた<sup>(22)</sup>。また、専門諸教科については、教育学部に開設されている授業科目に加えて、大学の専門学科（物理学、化学、動物学、生理学、植物学、社会学等）の授業科目の中で教育学部の学生に対しても開かれているものがあり、それらの受講も可能であった。

以上より、教育学部においては他学科と連携して学生の指導を行う方法が検討され実践されていたといえる。

#### (5) デューイ担当授業科目（表1、表2参照）

デューイ担当の授業科目は表1、表2にゴシック体で示した。デューイは、教育学科及び哲学科教育学部門では、1898年度、1900年度、1903年度はシニアカレッジとグラデュエイトの両コース、1899年度、1901年度、1902年度はグラデュエイト・コースの授業科目を開設している。教育学部では、1902年度はジュニアカレッジ相当、1903年度はシニアカレッジ相当及びグラデュエイト・コースの授業科目を開設している。

デューイは、教育学部長に就任した1902年の夏学期に、1897年度夏学期に135名の受講者があった<sup>(23)</sup>「教育心理学」を開設した。翌年度夏学期には、1898年度に開講して152名の受講者があった「レシテーションの方法」<sup>(24)</sup>を開設している。デューイは、教育学科において、多くの受講生を抱える授業科目を担当し「種をまく仕事」に取り組んでいた<sup>(25)</sup>。教育学部長就任後は、同学部においても多くの受講生が見込まれる授業科目を担当し「種をまく仕事」に取り組んだ。その一方で、教育学科及び教育学部の両方でゼミや特別研究<sup>(26)</sup>といった少人数の学生を対象とする授業科目も担当し、一人ひとりの学生の専門的な教育にも力を注いだ。

#### 4 デューイ辞任後の教育学部と哲学科教育学部門<sup>(27)</sup>

1903年発行の『シカゴ大学年次記録』哲学科の頁には、哲学科学科長としてデューイの名前は記載されているが、辞任したとの注意書きがある。教育学部門の開設予定科目数は、辞任前の1903年度に比べて1904年度は31科目から24科目へと減少しているが、1903年度は未開講の科目が多かったため、開講科目数は、1903年度21科目、1904年度19科目と大きな変化はない。

教育学部の頁には、教育学部長としてデューイの名前は記載されていないが、教育学部の目的は、前年度と同様で全く変更はなかった。しかしながら、入学要件は、「少なくとも4年のハイスクール課程の上に2年間の学業（カレッジでも師範学校でもよい）」から「一流のハイスクール（first

class high school) か同等のグレードの施設における4年間の課程」に変更された。デューイ在職中は、シニアカレッジ相当の初等・中等教員養成部を目指して入学要件が定められていたが、再びジュニアカレッジ相当へと変更されたのである。

設置されている4つのコース<sup>(28)</sup>の変更はなかったが、その履修には変更があった。1903年度の計画では、全科Aコース(2年)は1902年度の入学者にのみ適用されるとのことであったが、同コースは閉じられることなく引き続き開かれており、修了者にはディプロマが与えられることになっていた。全科Bコース(4年)は、幼稚園教員、小学校教員、中等学校教員、教員の評価者、小学校と師範学校の指導主事のためのコースであると明記されている。卒業者には教育学学士号(Ed.B)が授与されることになっており、他の学位の条件も満たしていれば他の学位も与えられる。中等学校教員と師範学校教員志望者コースには大きな変更はなかった。芸術・技術コースは、全科Aコース相当の2年コースと全科Bコース相当の4年コースとなり、前者は免許状、後者は教育学学士号が取得できることに変更になった。

## 5 デューイ教育学科長時代と教育学部長時代のカリキュラムの特徴

デューイ教育学科長時代の教育学科カリキュラムと教育学部長時代の教育学部カリキュラムを比較検討した結果、教育学科と同様に教育学部においても夏学期のマイナーコースの履修形態による授業の開講、他学科との連携の特徴がみられた。しかしながら、教職経験を考慮した授業プラン、すなわち、連携する諸学校における観察や実習時間の教職経験の有無による増減を可能とする授業科目構成、シニアカレッジ・コースへの学校現場での実践を伴う授業科目の開設、グラデュエイト・コースにおける中等教育に関する授業科目の充実の特徴はみられなかった。教育学部においては、4つのコースを設けて、初等教員を目指す場合、中等教員や師範学校教員を目指す場合、非アカデミック教科のいずれかに特化した教員を目指す場合に分けられていたことから、個別の授業において実践的な学習の機会を増減させるのではなく、コースごとに履修者のニーズに合ったカリキュラムを用意することで、結果的に個々の経験に応じた授業プランとなっていた。中等教育に関する授業科目もジュニアカレッジ相当の初等教員養成学部から、シニアカレッジ相当の初等・中等教員養成学部に変更されたこと、及び、中等学校教員と師範学校教員志望者コースでは、ジュニアカレッジ修了者を受け入れていたことに関連して、シニアカレッジ段階で開講され

ていた。

そして、1903年度の教育学部では、哲学科教育学部門の授業科目と31科目中22科目が一致していたことから、両者の協同によってデューイが目指した中等以上の教員養成と現職教員向けの専門教育を実現していたことが明らかになった。また、大学院課程はすべてが教育学部門の授業科目であったことは、デューイが構想していた教育学部にEd.D(教育学博士号)を取得できる大学院課程を設置することへの布石であったと推察される。

最後に、デューイ辞任後の教育学部においては、1903年度にシニアカレッジ相当に変更した入学要件のジュニアカレッジ相当への引き下げが行われた。デューイ在職中は1902年度入学生のみに限定されていた教育学部開設当初の2年制の初等教員養成は継続された。シニアカレッジ相当の入学生を想定していた全科Bコースはジュニアカレッジ相当の学生を受け入れる4年制課程となった。こうした変更から、デューイが、シカゴ大学教育学科及び教育学部においてめざしたシニアカレッジ相当の入学者に対する教員養成と大学院レベルの教師教育は、辞任後は維持されなかったといえる。

---

<註>

- (1) デューイは「教育の科学・技術を指導することに関しては明確な分業が必要である」と述べ、①一般教員の養成を主要な課題とする学校と、②国の教育組織を支える指導者たちの教育をする学校という2つの学校の必要性を説いている。開設当初のシカゴ大学教育学科と教育学部教員養成部の関係は、デューイのこの分業の構想通り教員養成と教育学研究・教育とを別けて行うものであった。J. Dewey, "Pedagogy as a University Discipline," (1896), *EW*, Vol.5, pp.281-289. デューイ著・大浦猛編、遠藤明彦、佐藤三郎訳「大学における教科としての教育学」『実験学校の理論』明治図書、1977年、127-137頁。2つの教育学部門の併存については、小柳正司『デューイ実験学校と教師教育の展開』学術出版会、2010年、135-179頁に詳しい。
- (2) *Annual Register*, July, 1901 - July, 1902, The University of Chicago Press, 1902, p.123.
- (3) Dykhuizen, G., *The Life and Mind of John Dewey*, Southern University Press, 1973, P.87. G. ダイキューゼン著、三浦典郎、石田理訳『ジョン・デューイの生涯と思想』清水弘文堂、1977年、139頁。
- (4) *Ibid.*, p.91. 同書、144頁。
- (5) 小柳正司『デューイ実験学校と教師教育の展開』。小柳正司「ジョン・デューイと教師教育の改革—シカゴ時代の取り組み—」『日本デューイ学会紀要』第51号、2010年、135-144頁。
- (6) 伊藤敦美「シカゴ大学教育学科におけるデューイ学科長時代の教師教育カリキュラム」『日本デューイ学会紀要』第53号、2012年、11-21頁。
- (7) 伊藤敦美「デューイ教育学構想における教育専門職教育論の検討—シカゴ大学教育

学部のカリキュラムを中心として」『日本デューイ学会紀要』第52号、2011年、105-115頁。

- (8) 1902年度に教育学科の学士課程は教員スタッフと共に教育学部に移され、哲学科の教育学部門の位置づけとなった。その後、教育学科はシカゴ大学本体の学科としては廃止となった。1902年7月発行の『シカゴ大学年次記録』より、教育学科は哲学科の教育学部門 (Courses of Education) となった。
- (9) 『シカゴ大学年次記録』によると教育学科に関する記述が掲載されたのは1895年度版から、教育学科が正式にスタートしたのは1895年秋学期である。本稿では教育学科がスタートしてはばかりカリキュラムが安定したとみられる、1898年度からを分析対象とした。Annual Register, July,1894 - July,1895, The University of Chicago Press,1895, pp.49-50.
- (10) Annual Register, July,1895 - July,1896,pp.52-53. 小柳正司「シカゴ大学実験学校創設の背景にあったデューイの教育学構想—師範教育から教育科学の確立へ—」『鹿児島大学教育学部紀要・教育科学編』第50巻、1999年、218頁。
- (11) 小柳正司『デューイ実験学校と教師教育の展開』、91-92頁。  
この構想を実現するために、教育学科ではジュニアカレッジ・コース (Junior College Courses)、シニアカレッジ・コース (Senior College Courses)、グラデュエイト・コース (Graduate Courses) の3つのコースが開設されていた。ジュニアカレッジ・コースの授業科目が開設されていたのは1898年度のみであり、1898年度にジュニアカレッジ・コースに位置づけられていた授業科目は、1899年度よりシニアカレッジ・コースに移されている (表1参照)。同学科では現職教員を対象にして、校長、教育長、指導主事、師範学校長など一般の教員を指導する立場をめざす教育専門職の養成を行うとともに、全学の一般学生のうちで卒業後中等教員をめざす学生を対象にした教職課程も受け持っていた。カリキュラム上、前者は主としてグラデュエイト・コース (大学院課程) として開設され、後者は、シニアカレッジ・コース (学士課程3・4年段階) として開設されていた。Annual Register,1895-1901. 小柳正司、『デューイ実験学校と教師教育の展開』、192頁。伊藤敦美「シカゴ大学教育学科におけるデューイ学科長時代の教師教育カリキュラム」、2012年、13頁。
- (12) Annual Register, 1902, 1903. 教員養成部の目的は、1902年度にデューイが学部長になった際に「中等教育」に関する記述が加えられた。そのほかの部分は、1901年度から3年間ほぼ変更はない。
- (13) 小柳正司『デューイ実験学校と教師教育の展開』、203頁。  
この構想を実現するために、デューイ学部長時代の1903年度の教育学部では次の4つのコースが設けられていた。芸術・技術コース (Courses in Arts and Technology)、全科コースA (The General Course A)、全科コースB、中等学校及び師範学校教員志望者向けコース (Courses Preparation to Teaching Secondary and Normal School) である。全科A及びBコースは初等教員養成を目的としていた。Aコースは1902年度の2年コースを引き継いだ (ジュニアカレッジ相当) のもので、1902年度までの入学生を対象としていた。Bコースはシニアカレッジ相当で1903年度以降の入学生を対象とし、修了者に教育学の特別ディプロマ (special diploma in Education) と教育学学士号 (Ed.B.) が授与されるものであった。中等学校及び師範学校教員志望者向けコースはジュニアカレッジ修了程度の者を対象とし、中等学校のいずれかの教科に対応した専門教科をシニアカレッジで学ぶとともに、その教

科の教授法に関する科目を教育学部で学び、修了者には、専門分野に応じて文学士(A.B.), 哲学士(Ph.B.), 理学士(S.B.)の学士号のうちのいずれかと教育学の専門職ディプロマ(professional diploma in Education)が授与されるものであった。芸術・技術コースは、2年間の専科コースで、4年間のハイスクールを修了した者と、2年以上の教職経験をもつ者を対象とし、音楽(Music)、絵画(Drawing and Painting)、木工加工(Woodworking)等の非アカデミック教科のいずれかに特化した教員養成を行い、学位は取得できないものであった。*Annual Register*, 1901, pp.108-109, 1902, pp.123-125, 1903, pp.132-141. 伊藤敦美「デューイ教育学構想における教育専門職教育論の検討—シカゴ大学教育学部のカリキュラムを中心として—」、108-109頁。小柳正司「ジョン・デューイと教師教育の改革—シカゴ時代の取り組み—」、135-144頁。教育学部の体制についての詳細な分析は小柳の同論文にて行われている。

- (14) デューイは、1897年12月6日のハーパー学長への手紙において、シカゴ大学教育学科将来構想について、教育学関連の授業科目の充実、中等教育に関する授業科目の開設、シカゴ大学と連携する諸学校における実践的な学習、教育学科と他学科との連携を構想している。本稿では、この構想を中心とした5つの観点からシカゴ大学教師教育カリキュラムを検討する。John Dewey to William Rainey Harper, December 6, 1896, Presidents' Papers, 1889-1925, 30/23. 伊藤敦美「シカゴ大学教育学科におけるデューイ学科長時代の教師教育カリキュラム」、12-13頁。
- (15) 『シカゴ大学年次記録』では、教育学科の授業科目はコースごとに記載されているが、教育学部の授業科目はコースごとに分けられてはならず、各授業科目の最後に対象となる学年が記載されている。
- (16) 伊藤敦美「シカゴ大学教育学科におけるデューイ学科長時代の教師教育カリキュラム」、17-18頁。
- (17) *Annual Register*, 1902, pp.381-382. *Annual Register*, 1903, pp.415-417.
- (18) 伊藤敦美「シカゴ大学教育学科におけるデューイ学科長時代の教師教育カリキュラム」、18頁。
- (19) *Annual Register*, 1903, pp.138-140. 小柳正司『デューイ実験学校と教師教育の展開』、206-207頁。
- (20) 同書、196-197頁。
- (21) 同書、234-235頁。
- (22) T. チャンベリン(地質学)(T.C.Chamberlin, Ph.D., LL.D, Professor and Head of the Department of Geology)、J. コウルター(植物学)(J.M.Coulter, A.M., Ph.D., Professor and Head of the Department of Botany)、W. ヘイル(ラテン語)(W.G.Hale, A.B., LL.D, Professor and Head of the Department of Latin)、H. ドナルドソン(神経学)(H.H.Donaldson, Ph.D., Professor and Head of the Department of Neurology)など。*Annual Register*, 1902, p.121.
- (23) 伊藤敦美「シカゴ大学教育学科におけるデューイ学科長時代の教師教育カリキュラム」、19頁。
- (24) 1898年度は授業科目名は「教授方法」でレシテーションの題材と方法を取り上げる内容であった。
- (25) デューイは1894年に哲学科の授業について「わがままをして、私は8人程度の大学院生の授業を2つもっている。選り好みをしたので、かなり粒ぞろいの学生だ。こうした排除策を取り、学生を一人前に鍛えることをタフツとミードに任せて、私

はもっと限定的な指導をしたいと思っている。とにかく、種をまく仕事は億劫になってきた」と述べている。しかしながら、教育学科においては受講生が100名を超える授業科目を担当していた。John Dewey to Alice Chapman Dewey, October 9, 1894, John Dewey Papers. 小柳正司『デューイ実験学校と教師教育の展開』、27頁。

- (26) 1901年度の「特別研究」の受講生は3名、1903年度の「ゼミ」の受講生は12名であった。Record of Work, University of Chicago Office of Register.
- (27) *Annual Register*, 1904, pp.130-202, pp.205-210, pp.429-431.
- (28) 芸術・技術コース、全科コースA、全科コースB、中等学校及び師範学校教員志望者向けコースの4コースのこと。



表1 教育学科・教育学部教員養成部授業科目(1898 - 1903年度の教育学関連科目)

	教育学科				教育学部教員養成部	
	1898年度の計画	1899年度の計画	1900年度の計画	1901年度の計画	1902年度の計画	1903年度の計画
	ジュニアカレッジ				ジュニアカレッジ相当	
夏学期					3.教育心理学,Mj.あるいは 前期か後期にM.1年生 4.児童心理学,M.前期,1年生 13.学校のカリキュラムにおける実的な改善、M.、後期1,2年生 14.本と本の使用、Mj. 15.応用教育学、Mj. *14・15は学年の記述なし	
秋学期	40A,41A. 小学校における家政学1週間に5時間の学校で使用する観点での調理・裁縫などの技術的な仕事と1週間に6時間の授業観察とアシスタント 秋学期・冬学期 40B,41B,40A,41A.と同じで短時間、2Mj 秋学期・冬学期				6.精神成長の方法、Mj、1年生	
冬					7.教材の方法,Mj,2年生	
春						
	ジュニアカレッジ・シニアカレッジ				ジュニアカレッジ・シニアカレッジ相当	
夏学期					2A. 2をマイナー・コース(6週間)で行う(2はメジャー・コース=12週間).前期	
秋学期					1.古代から18世紀までの教育の理論と実践の歴史、Mj,2,3年生 16.17.初等の仕事と関連した幼稚園の教育学、秋学期と冬学期にMj.として繰り返す,2,3年生	
冬学期					2.18世紀から19世紀間の教育の思考と進歩、Mj.,2,3年生	
春学期					18.フレーベルの教育哲学と後の教育との比較,Mj.,2,3年生	



	シニアカレッジ			シニアカレッジ相当		
夏学期	<p>1.教育心理学, M., 前期</p> <p>2.教授方法, M., 前期</p> <p>3.特別な方法, M., 前期</p> <p>4.教育史M., 前期</p>	<p>1A.教育史, Mj</p> <p>2A.方法の一般原理, M, 前期</p> <p>3A.学校の特別な学習の教育学: リーディング, 文学, 算数などの教授に適用する一般原理, M, 前期</p> <p>4.発生心理学のトピック, M, 前期</p> <p>21.児童研究, M, 前期</p>	<p>1.古代から18世紀までの教育の理論と実践の歴史, Mj, 秋学期, Mj</p> <p>3.教育心理学, M, 前期</p> <p>4.教育における肯定的な要因と否定的な要因, M, 前期</p> <p>5.学校制度の役割の研究: 幼稚園、小学校、中等学校、専門学校, M, 後期</p>	<p>3.教育心理学, M, 後期</p> <p>5.小学校カリキュラムの教材の特別な方法, M, 後期</p> <p>17.中等教育のトピック, M, 後期, 春学期, Mj</p>	<p>11.学校の組織とマネジメントの問題, M., 前期, 3年生</p> <p>12.中等教育のトピック, M., 後期, 3年生</p>	<p>01.小学校の仕事, 前期前半</p> <p>02.附属小学校の仕事と関連したラウンド・テーブル 最初の学期の前半単位なし</p> <p>03.カレッジの運営, 時間と場所は後ほど知らせる</p> <p>3A.教育心理学, Mj, 前期か後期にM.</p> <p>9A.高等学校の問題, M., 前期</p> <p>15A.レシテーションの方法, M., 後期</p> <p>17.教育の社会的諸相, M., 前期, 管理者、指導主事、校長向け</p> <p>18.グレートブリテンの教育の努力の歴史, M., 前期</p>
秋学期	<p>6.一般教育学, Mj</p> <p>29.応用心理学, Mj</p> <p>32.学校制度の役割, Mj</p>	<p>1.教育の理論と実践の歴史, Mj</p> <p>2.教育の理論と実践, Mj 必要条件: 心理学</p> <p>10.11.家庭科の教育的価値と効用, 2DMj 秋学期・冬学期</p> <p>10A, 11A. 家庭科の教育的効用, 2Mj (10と11は実際に教えるための準備をする、10Aと11Aは他の教授やスーパーバイザー、校長として学びたい学生向け)</p>	<p>6.小学校教育: 一般原理, Mj (DeweyとRunyon担当)</p> <p>9.家庭科の教育的価値と効用, DM (小学校での週6時間の観察とアシスタント)</p> <p>9A.家庭科の教育的効用, Mj (9と同じ。実践が少ない。週2時間の観察)</p> <p>10.社会制度としての学校の機能, Mj</p>	<p>6.学習者の方法, Mj</p> <p>9.家庭科の教育的効用の記述なし</p>	<p>3.応用教育心理学, Mj.</p> <p>4.発達心理学, Mj.</p> <p>12.幼稚園の指導法, Mj, 冬学期にも繰り返し開講, 必要条件: 一般心理学と発達心理学</p> <p>13.フレーベルの教育哲学, Mj, 秋学期、冬学期にも繰り返し開講, 2年生と教授と専門教育の経験がある学生対象。毎日2時間の幼稚園と小学校1年生での観察と実習を含む。必要条件: 一般心理学、発達心理学、応用教育心理学、コース11と12のいずれか</p> <p>19.言語と歴史の組織及びスーパービジョン, Mj. 翌年は芸術と科学に入れ換えられるだろう</p> <p>61.古代から18世紀の教育理論と実践の歴史, Mj, 1903年度開講なし</p>	

冬学期	7.教育原理, Mj 30.実践教育学, Mj 33.教育における肯定的な要因と否定的な要因, Mj	3.教育原理, Mj	2.18世紀から19世紀間の教育の思想と進歩, Mj 7.小学校教育: 歴史と地理, Mj 11.実験教育学, Mj 15.16.教育倫理学, 2Mjs 秋学期・冬学期	1.古代から18世紀までの教育の理論と実践の歴史, Mj, Given as 1A and 1B Mj (あるいはM)・夏学期 7.教師の方法, Mj		10.中等学校の教授とマネジメントの問題, Mj. 10A.小学校の教授とマネジメントの問題, Mj, 1903年度開講なし 11.早期児童期の心の発達, Mj., 必要条件: 一般の心理学, 1.2年生 16.教育の古典作品, Mj. 62.18世紀から19世紀間の教育の思想と進歩, Mj, 1903年度開講なし
春学期	8.偉大な教育改革, Mj 31.方法の発展と歴史, Mj 34.19世紀教育理論の基本原則, Mj	7.中等教育の教材と方法, Mj	8.小学校教育: 科学, Mj 17.学校衛生、衛生設備、建築, Mj	2.18世紀から19世紀間の教育の思想と進歩, Mj 8.教材の方法, Mj	8.学校の方法, Mj., 3年生 10.高等学校教師の目的と準備, Mj., 3年生	5.教育心理学論開発史, Mj. 6A.応用教育哲学, Mj, 1903年度開講なし 9.高等学校教師の目標と準備, Mj. 14.フレイバーの教育哲学と他の教育者との比較, Mj., 教授と専門教育の経験がある幼稚園教師対象 必要条件: コース13と同じ
シニアカレッジ・グラデュエイト			シニアカレッジ相当・グラデュエイト			
夏						
秋学期						67.応用教育倫理学, Mj., 必要条件: 小学校心理学と論理学, Mj, 1903年度開講なし
冬						
春学期						6.心と体, Mj., 必要条件: 少なくとも1つの入門コース以上の心理学
グラデュエイト			グラデュエイト			
夏学期	5.教育理論の発生学的研究, Mj 12.ゼミ: ヘルバルト, Mj 27a.組織としての学校, 前期の前半 27b.社会とその関係の中の学校, 前期の前半 28a.学校管理の特別な問題, 前期の後半 28b.カリキュラムの特別な側面, 前期の後半 (27a,bと28a,bはそれぞれ3週間の授業。これらのうち2つを受講するとMの単位となる)	5.教育改革, Mj 8.ロック, M, 前期 9.フレイバー, M, 後期 12.都市学校の管理, M, 前期 20.組織と管理の比較研究, Mj	20.19世紀の教育の基礎的原理, Mj 24.学校制度の組織と管理, Mj	20.教育改革, M, 前期 21A.学校制度の比較: イギリス、ドイツ、アメリカ, M, 後期 24.学校制度の組織と管理, M, 前期 27A.教育哲学入門, M, 後期		73.グレートブリテンにおける教育の努力の歴史, M, 前期 75A.教育の社会的諸相, M, 前期

秋学期	10.現代ドイツ教育学の概観, 2Mj, 秋学期・冬学期 98年度開講なし 13.ゼミ: ベスタロッチ, Mj 23,24.25.中等教育の問題, 3Mj 秋学期・冬学期・春学期	22.教育理論の発展, Mj, 必要条件: 教育学のコース1、哲学のコース4, 5 23.ゼミ: ヘルバルトに対するベスタロッチの影響, Mj 25,26.学校制度の組織と管理, 2Mj, 秋学期・冬学期	21.アメリカにおける公教育の管理, Mj 26.教育理論の発展, Mj, 開講学期の記述なし 必要条件: 教育学のコース1、哲学のコース4, 5, 1900年度開講なし	21.アメリカにおける公教育の管理, Mj, 1901年度開講なし 28.19世紀の教育理論の基礎的原理, Mj 31,32.ゼミ: 精神発達, 2Mjs, 秋学期・冬学期 33,34,45.特別研究: 教授の経験がある大学院生にのみ開かれる, 3Mjs, 秋学期・冬学期・春学期 26.教育理論の発展, Mj, 開講学期の記述なし 必要条件: 教育学のコース1と哲学のコース4,5 1901年度開講なし	74.州統制の特別な関係を伴ったアメリカにおける公教育の管理, Mj, 1903年度開講なし 76.教育の心理学的基礎, 1903年度開講なし 83.個人心理学, Mj. 92,93,94. 特別なリサーチ, 教授の経験がある大学院生にだけ開かれる 3Mj, 秋学期・冬学期・春学期
冬学期	14.ゼミ: フレーベル, Mj 16.ゼミ: コメニウス, Mj, 98年度開講なし 19.教育哲学, Mj	24.ゼミ: ハーバート・スペンサー, Mj 27,28.ゼミ: アメリカ教育史, 2Mj, 冬学期・春学期 29.中等学校制度の比較研究, Mj	22.小学校教育における組織と管理, Mj	22.小学校教育における組織と管理, Mj 29.教育のスーパービジョン, Mj	
春学期	15.ゼミ: スペンサー, Mj		23.中等教育: 組織と管理, Mj 25.教育の心理学的基礎, Mj, 必要条件: 少なくとも2つの教育学のコース 27.教育原理, Mj 必要条件: コース1, 2, 1900年度開講なし	23.高等学校の仕事, Mj 25.教育の心理学的基礎, 開講学期の記述なし 必要条件: 少なくとも2つの教育学のコースと2つの心理学のコース 1901年度開講なし 27.教育原理, Mj, 必要条件: コース1, 2 30.ドイツとイギリスの国立学校制度, Mj	15.応用教育論理学, Mj. 75.都市学校の管理, Mj. 77. 20世紀の教育理論, Mj. 春学期, Mj., 1903年度開講なし 78.教育の社会学的基礎, Mj. 90.ゼミナール: カリキュラム上の矛盾, Mj., 講師との特別な相談後に開かれる

\* 授業科目名の後の M = Miner course で1日に1時間を6週行うもの、Mj = Major Course で1日に1時間を12週行うもの、DM = Double Minor course で1日2時間を6週行うもの、DMj = Double Major Course で1日に2時間を12週行うものである。

\* ゴシック体・太字はデューイの担当授業科目。

\* 斜体は哲学科教育学部門の授業科目で教員養成部のカリキュラムにも掲載されているもの。

\* 網掛けは1903年度哲学科教育学部門の授業科目と同一のもの (3、3A、4、5、6、9、10、15、15A)

< Annual Register 1896—1901 より筆者作成 >

表2 哲学科教育学部門授業科目(1902年度、1903年度の教育学関連科目)

	1902年度の計画	1903年度の計画
	For the Senior College	
夏学期		59A. レシテーションの方法, M, 夏学期・後期 60. 教育心理学, Mj, 夏学期 (マイナーとして分けて履修することがある) 70A. 高等学校の教授とマネジメントの問題: 高等学校の校長と教員向け, M, 夏学期・前期
秋学期		61. 古代から18世紀の教育理論と実践の歴史, Mj, 1903年度開講なし
冬学期		62. 18世紀から19世紀の間の教育の思考と進歩, Mj, 1903年度開講なし 68. 小学校における教授とマネジメントの問題, Mj, 1903年度開講なし
春学期		59. 応用教育論理学, Mj 66. 教育理論の開発の歴史, Mj 70. 高等学校教師の目標と資質, Mj
	For the Senior Colleges and the Graduate Schools	
秋学期		63. 発達心理学, Mj, 必要条件: 小学校心理学 65. 応用教育心理学, Mj 67. 応用教育論理学, Mj, 必要条件: 小学校心理学と倫理学, 1903年度開講なし
冬学期		69. 高等学校における教授とマネジメントの問題, Mj 71. 中等教育のトピックス, Mj 72. 国立学校制度: イギリス、ドイツ、アメリカ, Mj
春学期		64. 心と体, Mj, 必要条件: 少なくとも1つの入門コース以上の心理学 71A. 中等教育のトピックス, M, 1903年度開講なし 72A. 国立学校制度: 現在進行中のイギリス、ドイツ、アメリカの中等教育の変化を参照して, M, 1903年度開講なし
	Graduate Causes in Education	
夏学期	61. 学校管理の問題, M, 後期 62. イギリスにおける教育の奮闘の発展の歴史, M, 前期 66. 学校制度の比較 (イギリス、ドイツ、アメリカ), M, 後期, Mj, 春学期	For the Graduate Schools
秋学期	64. アメリカにおける公教育の管理, Mj 67. 芸術の方法の発展, Mj 81, 82, 83. 特別研究: 教授経験がある大学院生に開講する, 3Mj, 秋, 冬, 春学期, デューイ、ヤング、ロック担当	73. グレートブリテンにおける教育の奮闘の歴史, M, 前期 75A. 教育の社会的諸相, M, 前期
冬学期	65. 都市学校の管理, Mj 68. 教育の心理学的基礎, Mj 74. セミナール: 15世紀から17世紀のカリキュラムの発展, Mj (講師との特別な相談後に開講する)	74. 州統制の特別な関係を持ったアメリカにおける公教育の管理, Mj, 1903年度開講なし 76. 教育の心理学的基礎, Mj, 1903年度開講なし 79. 言語と歴史の組織と監督, Mj 83. 個人心理学, Mj
春学期	63. グレートブリテンにおける教育の奮闘の発展の歴史, Mj 69. 文字の発展, Mj 70. 教育原理, Mj, 春学期 (必要条件: コース1: ジュニア・カレッジのための心理学、コース2: ジュニア・カレッジのための倫理学) 1902年度開講なし 72. 教育の社会学的基礎, Mj, 1902年度開講なし 73. 教育に関する論理的方法, Mj	75. 都市学校の管理, Mj 77. 20世紀の教育理論, Mj, 1903年度開講なし 78. 教育の社会学的基礎, Mj 82. 応用教育哲学, Mj, 1903年度開講なし 90. セミナール: カリキュラム上の矛盾, 講師との特別な相談後に開かれる, Mj

\* 授業科目名の後の M = Miner course で1日に1時間を6週行うもの、Mj = Major Course で1日に1時間を12週行うもの、DM = Double Minor course で1日2時間を6週行うもの、DMj = Double Major Course で1日に2時間を12週行うものである。

\* 斜体は教育学部教員養成部のカリキュラムにも記載されているもの。\*ゴシック体・太字はデューイの担当授業科目。

\* 網掛けは1903年度教育学部の授業科目と同一のもの(59、59A、60、63、64、65、66、69、70)

< Annual Register 1902 及び 1903 より筆者作成 >